



フランス語フランス文学コース



フランス語フランス文学コース

進級ガイダンス資料

2020年11月13日（金）

目次

コース紹介	2
専任教員紹介	5
文化構想学部所属の先生方	6
2020年度カリキュラム編成	7
2020年度時間割	9
フランス語科目レベルマップ	10
卒業論文題目一覧（2017～2019年度）	11
卒業生の声（2019年度卒業生インタビュー）	15

大学生活で肝心なのは、何かを身につけたといえること、何かに出会ったといえることです。フランス語という武器を身につけること、未知の文化との出会いを果たすこと、それを可能にするのがフランス語フランス文学コース。春学期は会えなくて残念ですが、みなさんに来てほしいという気持ちをこめて、コースの概要を紹介します。自由で知的でアットホームだけどマイペースな仏文に、ぜひ関心を持ってほしい！

◆こんな人のためのコースです。

- ☆「フランス語圏の文学・文化に関心のある人」はもちろんのこと、
- ☆「せっかくフランス語を選んだので、ちゃんと使いこなせるようになりたい」という人、
- ☆「文学、美術、映画、音楽、思想、いろいろなものに興味があるけど一つを選べない」という人、あるいは逆に、
- ☆「何をやりたいか決まっていないけど、何でもできる、ちょうどいい感じの居場所がほしい」人、そういう人たちにもぜひ仏文を薦めます。
- ☆フランス語選択でない人もやる気があればOKです。まずコース室にご相談ください。
- ☆転部試験もあるので、文化構想学部の人に関心があればぜひ連絡してください。



◆何を学ぶ場所か

当然ながら、フランス語、フランス文学、フランス文化を学ぶ場所です。もちろん文学は一つの柱ですが、フランス語圏に関係のあることなら何をやってもいいコースです。

どんな分野に興味がある人も、関心を深めていくには具体的な一つの地域を選び、その地域の視点から考えていくのはとても大切なこと。フランス語圏の豊かな文化は格好の足場を与えてくれることでしょう。

フランス語力を高めることを一番に考える人の期待にも、もちろん十分お応えします。

◆カリキュラムの特色

○まずは基礎をしっかり

全員が履修する必修科目は、2年次の週4コマと卒論演習だけで、あとはかなり自由に選べる仕組みです。必修演習3コマ（通年6コマ）は、それぞれ「言語」「文学」「文化（現在は主として美術と映画）」に当てられていて、これに週1コマ（通年2コマ）の「フランス文学史」が加わりますが、1年間でフランス文化全体の基礎を無理なくしっかり身につけられるでしょう。

(⇒「カリキュラム編成」)



○「言語」「文学」「文化」：学びたいポイントに合わせたカリキュラムを組める

3年生以上の履修は自由度が高いため、それぞれの関心に合わせてカリキュラムを組むことができます。

仏文の特色の一つは、選択外国語科目のかなりの部分をコースの選択必修科目として履修できること。これは語学力養成に力を入れたい人にとって有利というだけでなく、「フランス語を読む」や「フランス文化を知る」のなかには担当教員の専門を活かした、文学・文化の授業としてレベルの高いものも多く、学生各自の関心に沿った時間割が作りやすくなっています。(⇒「カリキュラム編成」「選択外国語科目」)



2021年度からは、「フランス語を読む」に「絵本・児童文学」が、「フランス文化を知る」に「BD・マンガ」が新登場し、カリキュラムの幅はさらに広がる予定です。

◆卒業論文のテーマ

カリキュラムを反映して卒論のテーマも多様ですが、文学関係が3~4割、そのほか映画や美術、思想、社会問題や歴史系のテーマがこれに次ぐ、といった感じでしょうか。ホームページで題目を公開しているのでぜひご覧ください。

◆就職・大学院進学

就職先は出版関係やマスコミから一般企業や官公庁までさまざまです。もちろん伝統的に、仏文は文学者を生み出す土壌でもありましたが、最近はコースごとの就職の特色は、以前ほどはっきりしていないかもしれません。もちろんさらに研究を深めるために、大学院に進む学生もコンスタントに存在しています。

◆留学について

平均すると、仏文生の5人に1人くらいが留学を経験しています。仏文なら留学の情報も集めやすいし、留学しやすい環境なのは間違いありません。フランス語圏への留学なら留学先で取った科目の単位互換は簡単なので、1年間留学しても4年での卒業は可能です(ただし留学する学年によっては、就職活動の問題はあるかもしれません)。

フランス語圏の協定校への留学が普通ですが、なぜか最近、英語圏を中心として、フランス語地域以外に留学するケースもふえてきています。英語はもうできるのだから日本ではなく現地で体験し、フランス語は日本で勉強するという選択も、それはそれで悪くないかもしれません。



◆教員紹介

専任教員はそれぞれ、中世、17・18世紀、19世紀、20世紀を専門にしている、バランスのいい配置です(⇒「専任教員紹介」)。さらに文化構想学部の先生も仏文コースの授業に協力してくださっていて、カリキュラムは厚みのあるものになっています(⇒「文化構想学部所属の先生方」)。詳しい教員紹介についても、ぜひホームページを見てください。

◆コース室/LA/火曜のランチ会

コース室は39号館3階2319です。フランス語図書もいろいろ置いてあるし、会議や授業で使っていなければ学生も自由に入れるので、秋学期になって状況が許せば、1年生のみなさんもぜひ気軽に話をしに来てください。講師の先生か大学院生がお相手します。

それから知っておいてほしいのがLA(ラーニング・アシスタント)の制度。ウィークデーの午後はコース室の向かいの部屋で大学院生が待っていて、フランス語に関する質問に何でも答えてくれるというサービスです。今年度前期はこういう状況なのでサービスを提供できませんが、もし後期に再開されたら、39号館は入ったことがなくて敷居が高いなどと思わずに、ぜひ気軽に足を運んでみてください。

さらに火曜の昼休みは、教員と学生がお昼を持ち寄ってランチ会をやっています。1年生でも顔を出してくれる人もいるし、そのうち再開できた場合には、こちらにもぜひ来てみてください。教員と接触しやすいのは、小さめのコースのメリットの一つです。

◆ホームページと連絡先

仏文に関心を持ってくれた人は、ぜひホームページも見てください。イベントの案内や詳しい教員紹介、過去の卒論のタイトルなどのほか、毎年3人の卒業生に登場してもらった「卒業生インタビュー」も掲載されています。質問があれば、いつでも気軽にコースのアドレスまで！(⇒「専任教員紹介」の下にある情報を見てください)



文学部

フランス語フランス文学コース 専任教員紹介

2020 年度

教員名	専攻分野	研究内容
川瀬 武夫 2303	19 世紀フランス文学 近現代詩	①フランス文学における「近代」の成立と発展をフランス大革命以来の政治的・社会的激動の関連において研究する。 ②ボードレール、マラルメ、ランボー等、主として象徴主義の系譜に属するフランス詩を多面的に研究する。
鈴木 雅雄 2309	20 世紀フランス 文学・芸術	専門はシュルレアリスム研究。今後は特に、狭義の美術だけでなく、マンガや絵本、ポスターなども考慮に入れつつ、視覚文化論的な広い文脈でシュルレアリスムの造形活動を位置づけることを課題にしていくつもりです。
瀬戸 直彦 2307	中世詩 中世文学 文献学	中世フランス抒情詩の解釈と校訂を研究しています。ラテン語から、現代のフランス語にいたるあいだにあるオック語（南フランス語）やオイル語（北フランス語）で記されたものには何でも興味があります。
デュスッド, オディール 2302	古典文学 レトリック	17～18 世紀フランス文学研究（小説、演劇、詩）。フランコフォニーの小説を含め、フランス語で表現している現代の小説家についても研究しています。
佐々木 匠（講師） 2412	20 世紀フランス文学	アルベール・カミュを中心に、20 世紀のフランス文学を研究しています。

☆ 教員名の下に数字は研究室番号

☆ コース室：39 号館 3 階 2319(今年度の開室時間は未定です)

☆コースのメールアドレス：salut@list.waseda.jp ☆ HP：http://flas.waseda.jp/french/

☆Twitter：早稲田仏文 officiel (@WFutsubun)

フランス文化を専門となさる

文化構想学部所属の先生方

教員名	専攻分野	研究内容	研究テーマ
北村 陽子 (文芸・ジャーナリズム論系) 2301	美術批評史 近代絵画	19世紀の絵画とその批評。テキストとイメージの問題。諷刺画、本の挿画、写真、映画など。	美術批評、映画
酒井 智宏 (複合文化論系) 33-1502	理論言語学 言語哲学	統語論、意味論、語用論の研究のほか、意味の成立基盤に関する哲学的考察、理論言語学の諸概念の科学哲学的検討を行っています。	文脈主義、意味の外在主義、固有名論、トートロジー論
藤本 一勇 (表象・メディア論系) 2311	現代思想	20世紀フランス思想、特に実存主義以降の思想。「脱構築」的思考を現象学・存在論や政治・社会・文化との関連で研究。	デリダ、レヴィナス、メルロ＝ポンティ、サルトル、ブランショ等
芳川 泰久 (文芸・ジャーナリズム論系) 2304	19・20世紀小説 文芸批評	バルザックとその時代の知。サルトル以降の現代文学。批評理論。科学認識論等。	バルザック、サルトル（小説）、ソレルス、トゥルニエ、バルト等

2020 年度フランス語フランス文学コース カリキュラム編成

	必修		選択			
	春期	秋期	春期/秋期			
2 年次	6	6	10	4	8	
	演習1 演習2 演習3	演習4 演習5 演習6				選択講義Ⅱ類 フランス語学概論 フランス語史 フランス文学の現在 フランスの映画・映像論 フランス比較文化論
	2	2				
	フランス文学史1	フランス文学史2				
3 年次			10	4	8	
						演習 7～16
4 年次	2	2				
	演習(卒論)	演習(卒論)				
小計	10	10	10	4	8	
計	42					

◇必修演習科目

科目名	配当年次	学期	曜日・時限	担当者
フランス語フランス文学演習1 (フランス語1)	2 年以上	春期	木 1	O. デュスッド
フランス語フランス文学演習2 (フランス文学1)	2 年以上	春期	水 2	佐々木 匠
フランス語フランス文学演習3 (フランス文化1)	2 年以上	春期	金 4	鈴木 雅雄
フランス語フランス文学演習4 (フランス語2)	2 年以上	秋期	木 1	O. デュスッド
フランス語フランス文学演習5 (フランス文学2)	2 年以上	秋期	水 2	川瀬 武夫
フランス語フランス文学演習6 (フランス文化2)	2 年以上	秋期	金 4	瀬戸 直彦
フランス語フランス文学演習7 (フランス文学3)	3 年以上	春期	火 5	O. デュスッド
フランス語フランス文学演習8 (フランス文学5)	3 年以上	春期	木 3	瀬戸 直彦
フランス語フランス文学演習10 (フランス語学3)	3 年以上	春期	火 3	酒井 智宏
フランス語フランス文学演習11 (フランス文化3)	3 年以上	春期	月 4	鈴木 雅雄
フランス語フランス文学演習12 (フランス文学4)	3 年以上	秋期	火 5	O. デュスッド
フランス語フランス文学演習13 (フランス文学6)	3 年以上	秋期	金 3	川瀬 武夫
フランス語フランス文学演習15 (フランス語学4)	3 年以上	秋期	火 3	酒井 智宏
フランス語フランス文学演習16 (フランス文化4)	3 年以上	秋期	月 4	鈴木 雅雄

◇講義科目

科目名	配当年次	学期	曜日・時限	担当者
<必修講義科目>				
フランス文学史 1	2 年以上	春期	火 3	瀬戸直彦/O. デュスッド/川瀬武夫
フランス文学史 2	2 年以上	秋期	火 3	佐々木匠/鈴木雅雄/藤本一勇
<選択必修講義科目>				
選択講義Ⅰ類				
フランス詩	3 年以上	春期	金 4	川瀬 武夫
フランス思想	3 年以上	秋期	月 3	藤本 一勇
フランス小説	3 年以上	春期	木 2	芳川 泰久
フランス中世・ルネサンス文学	3 年以上	秋期	金 5	瀬戸 直彦
選択講義Ⅱ類				
フランス語学概論	2 年以上	春期	木 3	酒井 智宏
フランス文学の現在	2 年以上	春期	月 5	梶田 裕
フランス比較文化論	2 年以上	春期	火 6	佐々木 匠
フランス語史	2 年以上	春期	金 5	瀬戸 直彦
フランスの映画・映像論	2 年以上	秋期	火 2	北村 陽子
フランスの歴史と社会 (*)	1 年以上	秋期	火 6	佐々木 匠
フランス表象文化論 (*)	1 年以上	秋期	木 4	鈴木 雅雄

◇選択外国語科目〈春期・秋期〉

＜選択必修外国語科目＞

フランス語を読む			フランス語で表現する		
1・6 (文学1)	水6	福山	1A・6A (会話初級)	木4	クーショ
2・7 (哲学)	火6	立花	1B・6B (会話初級)	水5	ヴィエル
3・8 (芸術・文化)	火3	中島	1C・6C (会話初級)	金6	オジュロ
4・9 (現代文明)	月6	梶田	2A・7A (会話中級)	木3	ヴァンシヤン
5・10 (大学院受験)	火4	小出石	2B・7B (会話中級)	木5	クーショ
11・12 (文学2)	金3	福山	3A・8A (作文初級)	火5	小倉
フランス文化を知る			3B・8B (作文初級)	水6	中野
1・6 (時事フランス語)	水5	高頭	4・9 (作文中級)	木4	デュスッド
2・7 (フランスを旅する)	月5	家山	5・10 (会話・作文総合)	木5	デュスッド
3・8 (映画・映像)	水5	キヨタ	11・12 (メディアコミュニケーション)	金3	明石
4・9 (美術・音楽)	水2	ベルナル＝ミルティル			
5・10 (歴史・社会)	月2	斎藤			
11・12 (ファッション・料理)	水4	ヴァリエーヌ			
13・14 (演劇・ミュージカル)	火5	片山			

＜それ以外の選択外国語科目＞

フランス語の資格をめざす			フランス語力を強化する		
1A・3A (初級)	木6	家山	1・5 (留学準備, 語彙)	金4	明石
1B・3B (初級)	土2	小幡	2・4 (文法)	土3	小幡
2A・4A (中級)	金5	オジュロ	3・6 (発音, 聞き取り)	火3	小出石
2B・4B (中級)	木2	ヴァンシヤン			

第三外国語としてのフランス語 1A・2A	水5	福山
第三外国語としてのフランス語 1B・2B	火5	立花
速習フランス語 A・B	月5/金5	松村

補足

- ・各科目の内容は Web シラバスを参照してください。
- ・登録方法および登録上の注意については「科目登録の手引き」を熟読してください。

(*) 「フランスの歴史と社会」と「フランス表象文化論」(前頁下)は、2012 年度以降の入学者に関しては、コース専門卒業要件単位数に含まれなくなりました。ご注意ください。

文学部 フランス語フランス文学コース

2020 年度 時間割

曜日	月	火	水	木	金	土
1	文化を知る 5 斎藤	文化を知る 10 斎藤	演習 2 佐々木 文化を知る 4 文化を知る 9 ヘルナール=ミルテイル	演習 1 テュスト 演習 4 テュスト		資格をめざす 3B 小幡
2		フランスの映画・映像論 北村	演習 2 佐々木 文化を知る 4 文化を知る 9 ヘルナール=ミルテイル	フランス小説 芳川 資格をめざす 2B 資格をめざす 4B ヴァンサンテヤン		資格をめざす 3B 小幡
3		フランス文学史 1 瀬戸・テュスト・川瀬 演習 10 酒井 仏語を読む 3 中島 強化する 3 強化する 6 小出石	演習 5 川瀬 文化を知る 9 ヘルナール=ミルテイル	演習 8 瀬戸 フランス語学概論 酒井 表現する 2A 表現する 7A ヴァンサンテヤン	演習 13 川瀬 仏語を読む 11 福山 表現する 11 明石	強化する 2 強化する 4 小幡
4		演習 11 鈴木 演習 16 鈴木 フランス文学史 2 川瀬・鈴木・瀬戸・テュスト・佐々木 演習 15 酒井 仏語を読む 5 小出石 仏語を読む 8 強化する 6 小出石	文化を知る 11 ヴァリエーヌ	フランス表象文化論 鈴木 表現する 1A クーンヨ 表現する 4 テュスト	演習 3 鈴木 フランス詩 川瀬 強化する 1 強化する 5 明石	
5		フランス文学の現在 梶田 文化を知る 2 家山 速習仏語A 松村 三外としての仏語 1B 立花 文化を知る 13 片山 仏語を読む 2 立花 フランス比較文化論 佐々木	表現する 1B ヴァリエル 文化を知る 1 高頭 文化を知る 3 キヨタ 三外としての仏語 1A 福山 仏語を読む 1 福山 表現する 3B 中野	表現する 5 テュスト 表現する 2B クーンヨ 表現する 10 テュスト 表現する 7B クーンヨ	フランス語史 瀬戸 資格をめざす 2A オジユロ 速習仏語A 松村 資格をめざす 4A オジユロ 速習仏語B 松村	
6		文化を知る 7 家山 速習仏語B 松村 文化を知る 14 片山 仏語を読む 2 立花 フランス比較文化論 佐々木	表現する 6B 文化を知る 6 高頭 文化を知る 8 キヨタ 三外としての仏語 2A 福山 仏語を読む 6 福山 表現する 8B	表現する 10 テュスト 表現する 7B クーンヨ	フランス中世・近代フランス文学 瀬戸 資格をめざす 4A オジユロ 速習仏語A 松村 資格をめざす 4A オジユロ 速習仏語B 松村	

表の見方

(春期) (秋期)
担当教員
担当教員

(春期) (秋期)
担当教員
担当教員

授業の性質

ピンク字：2年次必修科目

赤字：卒業年次必修科目

青字：選択必修科目(演習, 講義, 外国語)

黒字：それ以外の選択外国語科目

補足

1) この時間割表は、早稲田大学文学部フランス語フランス文学コースに在籍する学部生を主な対象としています。
2) 記載されている科目名の多くは簡略化されています。正式名称は講義要項などで確かめてください。

3) 各科目の内容については、講義要項やWeb上のオンラインバス構築で把握してください。

4) 登録方法と登録上の注意については、『科目登録マニュアル』をよく読んでください。

3-1.外国語レベルマップ（フランス語）

※科目名の先頭に「★」があるものが1年次必修の基礎外国語科目で、それ以外のもが選択外国語科目です。

		内容分類				
		文法	会話	講読	文化	留学・資格
レベルⅣ		フランス語で表現する5 (会話・作文総合)	フランス語で表現する5 (会話・作文総合)	フランス語を読む5 (大学院受験のための仏語)		
		フランス語で表現する10 (会話・作文総合)	フランス語で表現する10 (会話・作文総合)	フランス語を読む10 (大学院受験のための仏語) フランス語を読む11 (文学2) フランス語を読む12 (文学2)		
レベルⅢ	フランス語力を強化する2 (文法)	フランス語で表現する4 (作文中級)	フランス語で表現する2 (会話中級) A		フランス文化を知る1 (時事フランス語)	フランス語の資格をめざす2 (中級) A
	フランス語力を強化する4 (文法)	フランス語で表現する9 (作文中級)	フランス語で表現する2 (会話中級) B フランス語で表現する7 (会話中級) A	フランス語を読む1 (文学1)	フランス文化を知る2 (フランスを旅する) フランス文化を知る3 (映画・映像) フランス文化を知る4 (美術・音楽)	
レベルⅡ	フランス語力を強化する5 (語彙)		フランス語力を強化する3 (発音の訓練)	フランス語で表現する7 (会話中級) B	フランス語を読む2 (哲学) フランス語を読む3 (芸術・文化)	フランス語の資格をめざす4 (中級) A
	フランス語で表現する11 (メディア・コミュニケーション)	フランス語で表現する3 (作文初級) A	フランス語力を強化する6 (聞き取りの訓練)	フランス語で表現する7 (会話中級) B	フランス語を読む3 (現代文明) フランス語を読む4 (文学1)	フランス語の資格をめざす4 (中級) B
レベルⅡ	フランス語で表現する12 (メディア・コミュニケーション)	フランス語で表現する3 (作文初級) B		フランス語で表現する1 (会話初級) A フランス語で表現する1 (会話初級) B フランス語で表現する1 (会話初級) C	フランス語を読む4 (現代文明) フランス語を読む6 (文学1) フランス語を読む7 (哲学)	フランス語の資格をめざす1 (初級) A
	フランス語で表現する8 (作文初級) A	フランス語で表現する8 (作文初級) B		フランス語で表現する6 (会話初級) A フランス語で表現する6 (会話初級) B フランス語で表現する6 (会話初級) C	フランス語を読む8 (芸術・文化) フランス語を読む9 (現代文明)	フランス語の資格をめざす1 (初級) B
レベルⅠ	★1年フランス語 イ・ロ・ハ・ニ 第三外国語としてのフランス語A1 第三外国語としてのフランス語A2 第三外国語としてのフランス語B1 第三外国語としてのフランス語B2 速習フランス語 A 速習フランス語 B				フランス文化を知る5 (歴史・社会) フランス文化を知る6 (時事フランス語) フランス文化を知る7 (フランスを旅する) フランス文化を知る8 (映画・映像) フランス文化を知る9 (美術・音楽) フランス文化を知る10 (歴史・社会) フランス文化を知る11 (ファッション・料理) フランス文化を知る12 (ファッション・料理) フランス文化を知る13 (演劇・ミュージカル) フランス文化を知る14 (演劇・ミュージカル)	フランス語の資格をめざす3 (初級) A フランス語の資格をめざす3 (初級) B

各レベルの対象と到達目標（目安）

レベルⅣ	学習歴が3年程度の学生が対象
レベルⅢ	学習歴が2年程度の学生が対象
レベルⅡ	学習歴が1年程度の学生が対象
レベルⅠ	初めて学ぶ学生が対象

備考

文学部フランス語フランス文学コース

2019 年度卒業論文題目一覧

ブラックサッド分析

ルネ・シャール論—『ソルグ川—イヴォンヌのための歌』を中心として—
ジュール・ヴェルヌと編集者エツェル—『二十世紀のパリ』について—
モーリス・ベジャールとバレエの変遷

フレンチミュージカルの演出効果

—『レ・ミゼラブル』からミュージカル映画の流行を読み解く—

サラ・ベルナールとイメージ戦略

アルプ論—ダダ、具体的共同—

映画作品から読み解く LGBT の世界—映画『Call Me By Your Name』—

クリスチャン・ディオール論—「私」を包囲するものたち—

ファッションの中心地としてのパリ

大聖堂の破壊と修復—ノートルダム大聖堂の変遷を中心に—

フランスとアメリカにおける『オペラ座の怪人』の受容

セリーヌにおける怒りの文体

マルセル・デュシャン研究—レディメイドの形をめぐって—

『素粒子』論

上質なワインを作るフランス

ディオールのニューロックにみるオートクチュールの社会的役割

オディロン・ルドンの黒の時代について

村上春樹からハルキ・ムラカミへ

—『国境の南、太陽の西』における「ように」の仏訳研究—

ヴィクトル・ユゴーの生涯—残された作品を巡って—

サン=テグジュペリとファム・ファタル—『星の王子さま』におけるバラ解釈試論—

『アルファヴィル』（ジャン=リュック・ゴダール）論—ゴダールと二項対立—

自らを伝説にした女性、ココ・シャネル

フランス革命とギロチン

ムンクとゴッホ—パリ時代が独自のスタイル獲得までに果たした役割—

ジャン=リュック・ゴダール論—『映画史』から『イメージの本』へ—

エミール・ゾラと第二帝政期フランスの資本主義

—『ボヌール・デ・ダム百貨店』を中心に—

『クレオール（性）礼賛』論

バルザックと 19 世紀前半のフランス—『ゴリオ爺さん』における貧困層と富裕層—
ハンス・ベルメールのイラストレーション
時代におけるモードの変容とその再定義
ドビュッシーのピアノ音楽—作品分析から読み解くドビュッシイズム—
カルヴァンの実像
フィリップ・ソレルス、マルグリット・デュラス論—主体・出来事・溶解—
モンテーニュ『エッセー』研究—絶えず揺れ動く『エッセー』の考察—
エミール・ゾラ『獲物の分け前』とパリ大改造
フランスの教育と生活
シモーヌ・ヴェイユ論
フランス映画 年の差恋愛とその表現

2018 年度卒業論文題目一覧

中世フランスの散文物語『ポンチュー伯の娘』について
—フランス国立図書館写本 770 版の翻訳—
ユオン・ド・メリー『反キリストの騎馬試合』についての考察
—Margaret O'Bender の解説と作品読解を主軸に—
赤ずきんちゃんの変遷—なぜ赤い頭巾を被っているのか—
Les Misérables から見る人間の思想と事実
デュマ『ジョゼフ・バルサモ』における空想科学—錬金術と動物磁気—
谷崎潤一郎とバルザック—飛翔と没落—
フランス文学における「母」の表象—バルザック、ゾラ、フロベール—
蒲原有明におけるフランス象徴詩の影響について
村上春樹とプルースト『ノルウェイの森』におけるプルースト的側面—
「声」は「享楽」へ—ベケット、プルースト、そして映画—
シュルレアリスムと言語—「地球はオレンジのように青い」を巡って—
メルロ＝ポンティの芸術論—在ることを表現する絵画について—
シモーヌ・ヴェイユ論—後期シモーヌ・ヴェイユにおける神の観念と共同体について—
フランソワーズ・サガンにおける結婚観
フランシス・ポンジュ研究
ジル・ドゥルーズのニーチェ
『ノルウェイの森』仏訳の考察
イメージ、ことば、持続—近代視覚文化を語るための理論的モデル—
オディロン・ルドンの変容

ニキ・ド・サンファルと身体

フランスポスター黄金期からみる女性描写の比較

ージュール・シェレと同時期に活躍したポスター画家たちー

19世紀フランスの上流階級における女性ファッションの変遷

『ノートルダム・ド・パリ』ミュージカル比較論

エリック・サティ「家具の音楽」の思想をめぐってー「装飾」的音楽の創造ー

フランス文化と渋谷系

1960年仏クライム映画の描写についてーロベール・ブレッソン、

ルネ・クレマン、フランソワ・トリュフォーの3作品を比較するー

フランス映画 年の差恋愛とその表現

日本語とフランス語における移動動詞の比較

ー「アガル」「ノボル」« monter » « s'élever » « se lever » についてー

心を動かすレトリックーフランス語スピーチから学ぶ説得技術ー

死刑執行人シャルル＝アンリ・サンソンの生涯ーフランス革命に翻弄された人生ー

シャルリ・エブド事件とメディアー日本の思想的課題ー

フランスの教育と生活

日本人とフランス幻想ー国民性の日仏比較をとおしてー

Vins japonais et vins français

日本ワインとフランスワインー飲食文化の比較とワインの在り方ー

フランスと自転車ー比較文化的観点から見る自転車の歴史とこれからー

2017年度卒業論文題目一覧

中世フランスの物語『ポンチュー伯の娘』ー写本 770 版ー

Le charme des contes de Perrault

『レ・ミゼラブル』と19世紀フランスーフランス社会と女性の表象ー

Émile Zolaー『ボヌール・デ・ダム百貨店』における創造的活動と破壊的活動、

そして社会の縮図としてのデパートとはー

『星の王子さま』の献辞について

エルザ・トリオレ論ー「ボンソワール テレーズ」についてー

モネとジャポニスム

コラージュとマックス・エルンスト

ーレヴィ＝ストロースとコラージュにおけるデペイゼー

ハンス・ベルメールの人形写真ーなぜ「人形」だったのか、なぜ「写真」だったのかー

19世紀フランスバレエ論ーバレエに見るロマンティシズムー

宝塚歌劇におけるフレンチ・ミュージカル

日本演劇における「スター主義」と「作品主義」ーフランスとの関わりを交えての考察ー

Comment la chanson populaire française s'est fondue dans la culture japonaise

『シェルブールの雨傘』における歌、音楽

フレンチヒップホップの現在

成瀬巳喜男とフランスー成瀬巳喜男『浮雲』と

レオス・カラックス『ボンヌフの恋人』についてー

タチにおける展示の主題について

ノルマン＝コンクエスト以降の中世英国

ボルドーワインと食



「本当に好きなことができるのは、
大学生が最後」という教授の言葉で
仏文を選んで正解でした。

—仏文に進むと決めたのはなぜですか？

1年生の時のフランス語の授業がきっかけです。初めて学ぶフランス語は難しいと感じましたが、担当の仏文の先生がとても優しく、熱心に指導してくださったおかげで興味を持つことができました。もともと語学は好きだったし、仏文のガイダンスに参加した時に雰囲気がとても良いと感じたし、調べてみると学べる範囲が広いことも分かり、仏文に進むことを決めました。

—仏文に進んで雰囲気はどうでしたか？

私の学年は仲が良く、みんなが自然とコース室に集まってくるんです。でも個人主義的なところもあって、自分の好きな勉強を熱心に取り組んでいる、そんな雰囲気がとても心地よく感じました。さらに仏文には2017年から始まったLA室があります。LA室は「ラーニングアシスタント」の略で、その部屋に行けば院生が相談にのってくれたり、課題やレポートに関してのヒントをくれたり、私たち学生のサポートをしてくれるんです。

—院生のサポートは心強いですね？

まわりにフランス文学に詳しい人が多くて劣等感を感じた時や、フランス語を訳す授業が辛かった時、いろいろな場面で院生に助けられました。「お兄さん」みたいな感じでいつも親身に話を聞いて

てくれたおかげです。そして仏文は教授との距離も近い。毎週火曜日コース室でランチ会があり、教授も院生や学部生と一緒にご飯を食べます。自由参加ですが、いつも部屋はいっぱい。こんな風に教授と気軽に話せるのも仏文の魅力だと思います。

—仏文での研究テーマは何でしたか？

卒論は『マルセル・デュシャン研究—レディメイドの形をめぐって—』です。仏文なのに絵画と思われるかもしれませんが、絵画の授業もあるし、鈴木先生が卒論もサポートしてくれました。仏文だからフランス文学ではなく、絵画も映画も歴史も学べます。私は映画が好きではなかったのですが、2年生の時の瀬戸先生の授業をきっかけに、意外に面白いかもしれないと興味がわき、仏文に入って初めて多くの映画を見るようになりました。



—卒業後はどんな仕事をするのですか？

ゲーム会社で働きます。なぜかというと、親に禁止されたり、悪者にされたとしても、子供には、自信をもって「ゲームや漫画が好きだ」と思って欲しい、そんな気持ちを大人に制限して欲しくないと思ったからです。「就職には理系が有利」「文学なんて役に立たない」と決めつけられて自信をなくした私に仏文の先生方は文学の本当の素晴らしさを教えてくれました。だから私もそんな風にエンタメの素晴らしさを発信したいと思っています。

—これからコースを選ぶ後輩へのアドバイスは？

私も同じように考えたことがあるので分かるのですが、就職で有利だからという理由でコースを選びがちだと思います。でも自分の気持ちで決めて欲しい。「本当に好きなことができるのは大学生が最後、だから自分で決めた方がいい」という教授の言葉に押されて、仏文を選んでよかったと思っています。もしやりたいことが決まっていなかったら仏文はおすすめです。学べる範囲が広いから、仏文に来てからじっくり探すこともできますよ。



もしやることが決まっていなければ
幅広いジャンルで学べる仏文で
ゆっくり探すことをおすすめします。

—なぜ仏文に決めたのですか？

最初は哲学をやりたいと思っていたのですが、第二外国語でフランス語を選び、実際に学んでみたことで、フランス文学にも興味をもったんです。コースを決めるときに、どちらにするか迷い、決めかねたので、哲学コースではなく仏文コースにしました。なぜなら仏文なら文学はもちろん、サルトルやベルクソンなど哲学者についても研究テーマにでき、両方が射程圏内だと思ったからです。

—哲学と文学、どちらを選んだのですか？

最終的には、文学を選びました。哲学と文学どちらもやってみて、本気で哲学を追求するよりも、自分の興味は文学にあると分かったからです。今思えば、コース選択の際に、哲学に固執しなくて良かったと思います。そうでなければ哲学以外のことはできなかったし、哲学から文学への方向転換は難しかったと思います。選んだのが仏文だったから、哲学と文学どちらも学べたし、ジャンルを変えることもまったく問題なくできました。

—途中で研究テーマを変えていいのですか？

そもそも仏文では、文学はもちろんですが、フランスに関わることなら何を研究してもいいんです。

哲学もできるし、言語や歴史、映画・絵画・音楽などの芸術や建築、ファッションやワインをテーマに卒論を書いた人もいます。だから興味の対象が変わることは珍しくなく、ジャンルの大きな舵きりも、ごく当たり前のようによきます。他のコースのことは分かりませんが、たぶんそれは仏文ならではの、大きな魅力だと思います。

—卒論は何をテーマに書いたのですか？

卒論は『エミール・ゾラと第二帝政期フランスの資本主義—「ボヌール・デ・ダム百貨店」を中心に—』。19世紀に自然主義という文学潮流を起こした小説家エミール・ゾラについて書きました。ちょうど興味もてるジャンルを探していたとき、川瀬先生が授業で「ボヌール・デ・ダム百貨店」に触れたので読んでみたら、とても面白く、結果的に卒論のテーマになりました。小さなヒントでもアクションを起こすといろいろな発見がありますよ。



—卒業後はどんな仕事をするのですか？

故郷に帰って県庁で働きます。当初はインフラに関わる仕事をしようと就職先を考えていて、鉄道関連が希望だったのですが、それでは駅を基点にした開発にしか関われないと思い直し、県庁を選びました。もっと広範囲に、今本当に重要な課題となっている山間部のことまで、しっかり腰を据えて関わられる公務員として、県庁で働くべきだと考えたからです。

—仏文であることが就職に役立ちましたか？

ダイレクトに役に立つことはないかもしれませんが。でも自分の意思でテーマを見つけ、熱意をもって取り組んでいけば、それをちゃんと言語化して伝えることができるはずです。それはきっと就職活動でも、就職してからでも、役に立ちます。さらに仏文では必ずフランス語を学ぶので、自ら検定を受けて級をとれば、アピールできると思います。そのレベルが高ければ、仏文で頑張ってきたことを伝えやすく、面接官にも分かりやすいはずです。



研究すればするほど興味が広がる 彫刻家ジャン・アルプを 大学院でも追求していくつもりです。

—なぜ仏文に決めたのですか？

もともと美術や芸術に興味があったので、当然のように美術史コースに進むつもりだったのですが、1年生の時にフランス語を選択したことで仏文コースにも興味を持ちました。美術史コースなら日本美術や東洋美術など、あらゆる地域の美術について学ぶことができる。仏文なら自分がやりたかった西洋美術に絞って研究することができる。どちらにすべきか考えて、仏文を選びました。

—仏文を選んでよかったと思いますか？

勉強してみて、芸術というものは、芸術、音楽、文学などそのジャンルだけを学ぶのではなく、それらが深く関わっていること、歴史的、社会的な影響を色濃く受けていることにも意識を向け、研究をすすめることが大切だと分かりました。その点、仏文には、すぐ近くに自分とは違うさまざまな分野を研究している友達がいるし、サポートしてくださる先生方の専門も幅広い。だから広い視野を持ちつつ研究することができたと思います。

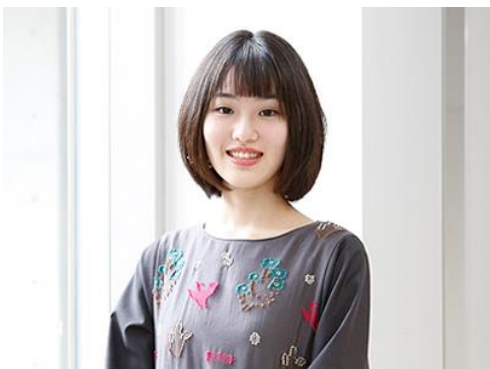
—他にも仏文ならではの魅力はありますか？

やりたいことが変わっていくことに対して寛容なところだと思います。研究テーマに関して、実際にやってみて違ったと気づくこともあるし、後からもっと好きなテーマに出会うことがあります。人の興味は変わっていくものだし、私たち学生にとって、変えられること、変えることを前向きに

受けとめてもらえることは、とてもありがたい。それが仏文ならではの心地いい雰囲気を作っているのかもしれない。

—仏文ならではの雰囲気とは？

自由です。いい意味でゆるい。こうでなければダメと決めつけるところがないから、好きです。個性豊かな先生たちがまさに仏文の縮図で、一人ひとりすごく違います。研究の分野はもちろん、趣味も性格もバラバラ、なのになんとなく一緒にいて心地いいんです。それは友人や先輩との関係も同じで、みんな一緒に楽しくしたいという人も、できればあまりべったりしたくないという人も、どっちにとっても居心地がいいのが、仏文です。



—何について卒論を書いたのですか？

卒論は『アルプ論—ダダ、具体的共同—』です。彫刻家であり、画家であり、詩人でもある20世紀の前衛芸術家で、ダダイズムという運動にも参加していたジャン・アルプについて書きました。国立近代美術館で見て、白く丸っこい生命体みたいな不思議な形の可愛い彫刻に一目惚れ。それをずっと覚えていて調べてみたら、すごく面白い人だと分かったんです。まだまだ興味は尽きず、大学院では海外の文献まで調べ、研究を続けるつもりです。

—これからコースを選ぶ後輩へのアドバイスは？

フランス語が本当に苦手、嫌いという人には、さすがに勧めませんが、苦痛じゃないというくらいなら、仏文を選んでも大丈夫だと思います。いろいろなことに興味があって何を選べばいいか決められないという人は仏文に進んでからじっくり選べばいいし、逆に何も興味のあるものがないという人も、仏文でさまざまな授業を選んで受けてみれば、その中からきっと何かを見つけることができると思いますよ。